

平成 31 年度 東京都内湾水生生物調査 12 月稚魚調査 速報

●実施状況

令和元年 12 月 11 日に城南大橋、お台場海浜公園、葛西人工渚において稚魚調査を実施した。天気は晴れで、気温は 13.2～16.1℃、風は北西～北北西で 1.5m/秒前後であった。この日は大潮で、満潮は 4 時 45 分、干潮は 10 時 20 分であった(気象庁のデータ)。

出現した魚類の種類数は、今年度の調査で最も少なく、10-11 月調査時に確認されたシロギスやマゴチ等は、今回は確認されなかった。これらの魚種の多くは、成長に伴い深い場所へと移動したものと考えられる。なお、葛西人工渚では、アカエイの採餌痕が多数確認された。

2019/12/11	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
作業時刻	10:20-11:10	8:55-9:59	11:35-12:45
水温(℃)	16.4	13.2	15.6
塩分(-)	23.5	26.5	27.8
透視度(cm)	>100	>100	33.0
DO(mg/L)	4.8	4.6	6.6
DO飽和度(%)	56.4	53.6	78.3
波浪(m)	0.1	0.1	0.1
pH(-)	7.3	7.5	7.7
水の臭気	無臭	無臭	無臭
備考	最干時に調査を行った。潮位は高く、干潟は干出しなかった。	下げ潮時に調査を行った。オリンピック準備の都合上、普段の調査地点は立入禁止になっていたため、管理棟をはさんで反対側で実施した。	上げ潮時に調査を行った。干潟上にはアカエイの採餌痕が多数確認された。

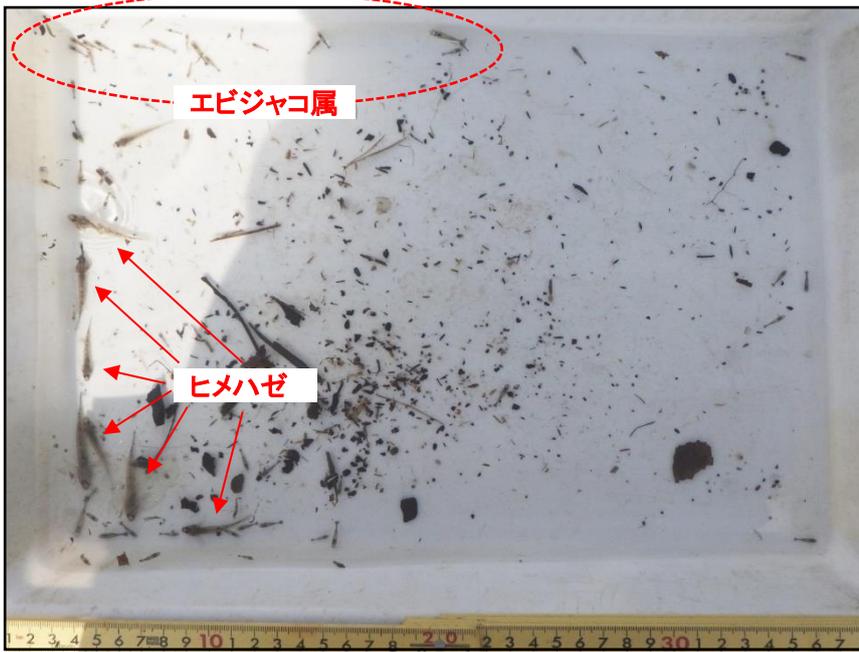
●主な出現種等 (速報のため、種名等は未確定)

主な出現種等	城南大橋	お台場海浜公園	葛西人工渚
魚種 (多い順 <sup>注</sup> )	ヒメハゼ(+)	ビリンゴ(+)	アユ(+)
	キチヌ(r)	キチヌ(r)	ヒメハゼ(+)
		ニクハゼ(r)	キチヌ(r)
		アシシロハゼ(r)	エドハゼ(r)
			アシシロハゼ(r)
魚類以外	エビジャコ属(c)	シラタエビ(c)	ニホンイサザアミ(G)
	ニホンイサザアミ(+)	ヒメイカ(r)	クロイサザアミ(G)
	クロイサザアミ(r)	ニホンイサザアミ(+)	ユビナガホンヤドカリ(r)
備考			

注) 表中の ( ) 内の記号は大まかな個体数を表す。

G:1000 個体以上、m:100~1000 個体未満、c:20~100 個体未満、+:5~20 個体未満、r:5 個体未満

# 城南大橋 採取試料



城南大橋西詰めにある干潟。  
北側には東京港野鳥公園がある。

## ●主な出現種等

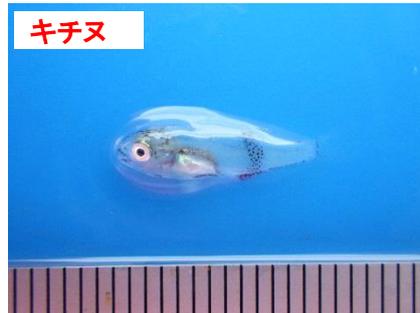
※写真のスケール 1 目盛: 1mm

### ヒメハゼ



全長は 9cm 程になる。内湾や河口域の干潟域の砂底や砂泥底に生息する。危険を察知すると砂に潜る習性があり、体の模様も砂や砂利の色によく似ている。

### キチヌ



沿岸の岩礁域や内湾の砂泥底などに生息する。東京湾の干潟域では、10~11月に9~17mmほどの仔稚魚が採集されている\*1。今回の調査では全ての調査地点で採集された。\*1:河野博(2011)東京湾の魚類 平凡社

### エビジャコ属



内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獐猛で、魚類の稚魚等を捕食することが知られている。

## 〈周辺の状況〉

### ニホンイサザアミ



汽水域に生息するアミの仲間(エビの仲間ではない)。河口域で春に大量発生し、魚類等の餌として重要である。ニホンイサザアミは体長 10mm 程、クロイサザアミは体長 15mm 程になる。クロイサザアミは、腹部に黒色斑があり、ニホンイサザアミに比べ黒っぽい体色をしている。

### クロイサザアミ

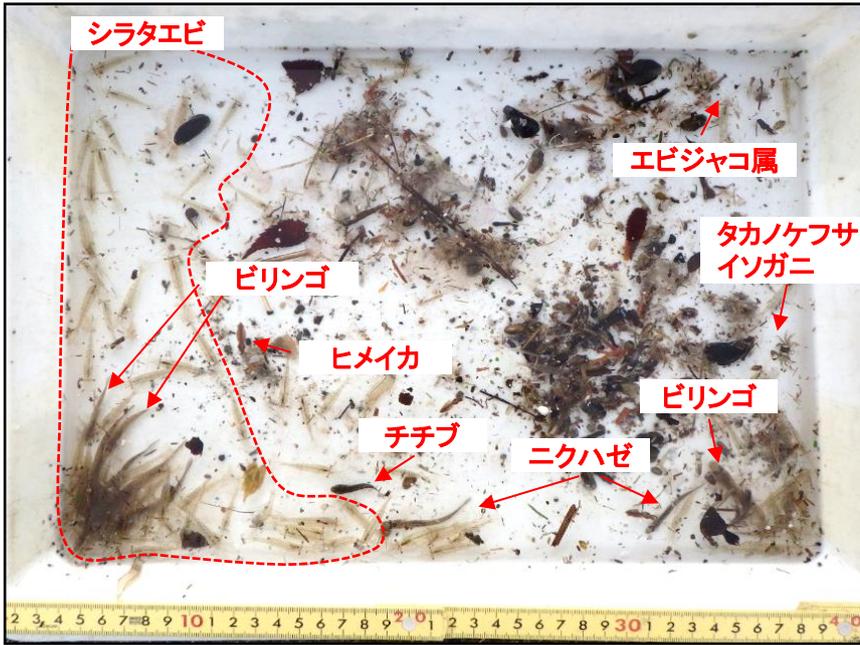


### レイシガイ



殻長 4cm 程で、殻にイボ状の突起が多数ある。干潟では、転石上や護岸壁周辺のマガキが多く固着している場所などに多い。肉食性でマガキなどの貝類を食べる。

# お台場海浜公園 採取試料



水際数メートルで急に深くなる人工の渚。レインボーブリッジのたもとにある。普段の調査地点が立入禁止になっていたため、100m 程西側で調査を行った。

## ●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛: 1mm

### ビリンゴ



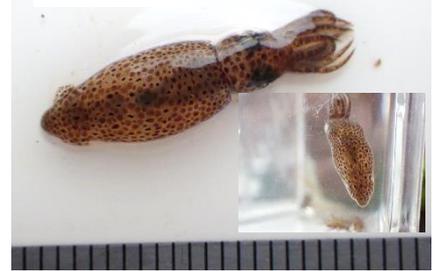
河口付近の干潟域で、仔稚魚が 3～5 月に大量発生する。稚魚が成長するにつれて、河川上流側に移動する。早春にアナジャコ等の甲殻類の巣穴に産卵する。

### ニクハゼ



東京湾では、湾全域から出現記録があるが、外湾ではあまりみられない。内湾のアマモやアオサの繁茂した場所や転石域などに出現し、河口域でもみられる。春季にアオサ(緑藻)とともに大量の仔稚魚が採集される。

### ヒメイカ



外套長 16mm 程の非常に小さなイカで、採集された個体が成体サイズ。藻場に生息し、背中の吸着器で藻に付着する(右下写真は水槽の壁に付着している様子)。小型の甲殻類等を食べる。

### チチブ



内湾や河口域に生息し、泥底から砂泥底にある転石やカキ殻の間や下などに多くみられる。雑食性。戦後、水質悪化のために一番早くに姿を消したと言われている。

### タカノケフサイソガニ



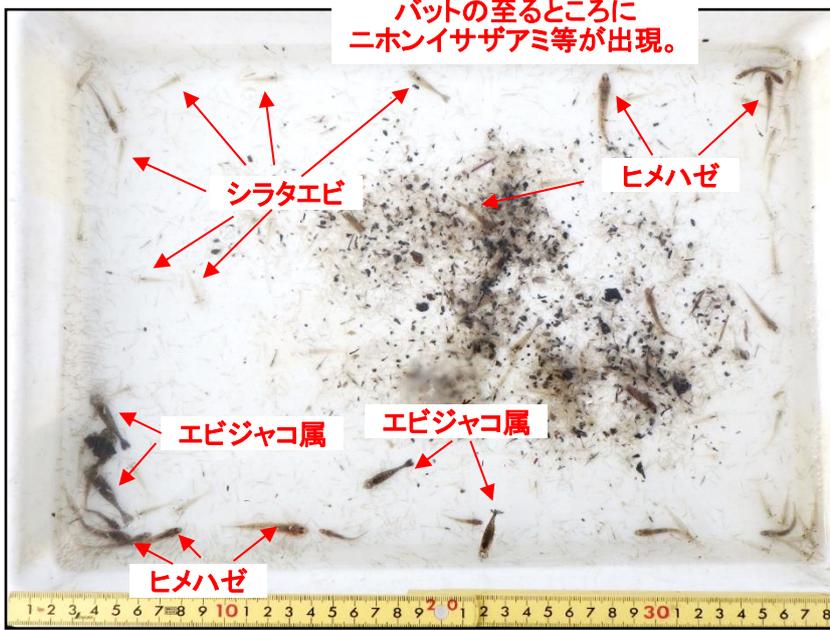
甲幅 3cm 程になる。転石の下、護岸壁の隙間、牡蠣殻の中などに生息する。オスのハサミの付け根に毛の房がある。体色には個体差がみられる(特に小型の個体が顕著)。

### イソコツブムシ属



ダンゴムシやオオグソクムシに近い甲殻類の仲間(等脚類)。体長は 5～8mm で、体を丸めて球状になることができる(右上図)。石の下や海藻の中などに生息する。

# 葛西人工渚 採取試料



バットの至るところにニホンイサザアミ等が出現。



東京湾奥にある広大な人工干潟。野鳥等保護区域のため、一般の立ち入りが禁止されている。砂浜にあいたクレーター状の穴はアカエイの摂餌痕。

## ●主な出現種等

※写真のスケール 1 目盛: 1mm



**アユ**  
この秋生まれた稚魚で、海で生活する間は体の透明感が強い。産卵は夏から秋に河川中流部の砂礫底で行われ、孵化後卵黄を吸収しながら海に流下する。干潟域は河川を遡上する前に利用している。



**エドハゼ**  
湾奥の干潟域に生息し、アナジャコ属の巣穴があるような砂泥地を好む傾向にあり、それらの巣穴を隠れ家として利用している。小型の甲殻類を食べる。環境省や東京都のレッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。



**アシシロハゼ**  
マハゼに似るが、ウロコがやや粗く、体側には白色の横帯がある。初夏～秋にかけて、河口域の沈石や貝殻の下面に産卵する。小型の甲殻類を食べる。



**シラタエビ**  
スジエビ類よりも大型で、体長 7cm 程になる。汽水域に生息しており、触角が青く、額角がトサカ状に盛り上がることで他種と簡単に見分けられる。



**ニホンイサザアミ**  
**クロイサザアミ**  
※解説はお台場海浜公園を参照。6月以降の調査では、本調査地点で必ず大量のニホンイサザアミが採集されている。ニホンイサザアミは稚魚の餌として、非常に重要な役割を果たしている。



**ユビナガホンヤドカリ**  
東京湾の干潟では、普通にみられるヤドカリである。潮間帯から浅海域にかけて生息する。無脊椎動物や小魚等の死骸を食べるため、「海の掃除屋」としての役割も果たしている。